

【第9節】 岐阜 1-2 YS 横浜

●ラストプレーで失点とは……。この内容で優勝だの昇格だのどの口が言うのかと他所のサポに笑われますよ。ただ YSCC はしっかりと岐阜対策をしてきてたと思う。両サイドを高めにとって船津と橋本和に仕事をさせてなかった。シュタルフ監督、今より戦力の整ったチームを任せられたらいい仕事するんだろうなあという感じがしましたね。岐阜は得点力不足が顕著に表れた。村田透馬の 1TOP ではなかなか厳しいのではないかと。もしかして安間さん、攻撃の引き出しをあまり持ち合わせておられないのでは？（岐阜の誇り）

●記録的に早い梅雨入りをしたと思ったら、カラリと晴れた試合。いつもだったら嬉しい天気なのだけど、今季の岐阜の戦績を考えると素直に喜べない（苦笑）。しかも YS 横浜は現在最下位とはいえ、昨季も苦しめられた対戦相手。かつ『(昨季) 岐阜の半分は (対戦相手への) 優しさでできている』とも揶揄される、下位チームへの取りこぼしが脳裏に浮かぶ。残念ながら岐阜の天皇杯は終わってしまったのだから、割り切ってリーグ戦に集中して欲しいのだけれど……。個人的な見解では、最下位とはいえ、今季もいいサッカーをしている YS 横浜。その相手に、試合の序盤は流れを掴んで優位に運ぶ岐阜。だけど、その時間帯に得点を奪うことができない。すると、徐々に主導権を YS 横浜に奪われてゆく。天皇杯で HondaFC がやってみせたように、アンカー #14 本田拓也の両脇に選手を置いて、岐阜の両 WB が前に出て行けないようにして、岐阜の前線の人数を減らす。すると人数がいらないから、スカスカに空いた中盤のスペースでボールを組み立てて岐阜のゴールに迫る YS 横浜。岐阜も時折カウンターを仕掛けるが、単発で終わってしまう。それでも、後半から #42 柏木陽介を投入してボールの収まりを良くして攻撃を活性化し、P A 内に侵入した #14 本田が倒されて P K を獲得し、これを #10 川西翔太がきっちり決めて先制点を奪ったまでは、まだよかった。問題はその後の選手交代だ。#6 三島頌平は守備的交替だとして、左サイドの #24 粟飯原尚平は…攻撃強化？と思っていたら、その左サイドをぶち抜かれ、なんとかクロスを跳ね返したものの、そのこぼれ球を思い切りよく振り抜かれ、固まっていた選手の間を通り抜けてサイドネットに…（溜息）。あの交替が『しっかり守れ』なのか『追加点を奪いにいけ』なのか、ピッチ上の選手たちにも共通理解がなかったんじゃないだろうか。その後、決勝点を奪うべく攻勢を強める岐阜だったけれど、どうにもプレーの質が……。岐阜の方が、個人技では上回る選手が多いはずだと僕は思っているのだけれど、どうしてパスやドリブルじゃなくて、ヘディングで安易に前に送る（そして奪われる）プレーを選択してしまうんだろう？そして、徐々に足が止まってゆく岐阜の選手たち。ピッチ内練習時に、みっちり身体をアップさせていた岐阜と対照的に、軽め早めにアップを終えていた YS 横浜。シュタルフ監督が『勝つんだ！』と檄を飛ばし、それに応えて必死に走る YS 横浜の選手たち。当たって欲しくない嫌な予感的中してしまい、後半アディショナルタイムに、前掛かりになったところでカウンターを浴び、足の止まった岐阜の守備陣を切り裂く、入ったばかりの YS 横浜の選手。結果論になるけれど、勝ち点 3 を獲りにいって全てを失ってしまう最悪の結果。しかもホーム戦で…いや、ホーム戦だから、こうなってしまったのかもしれない。この反省をどう活かして今後のリーグを戦っていくのか、それしか術はない。僕は、P K 直前に #42 柏木が他の選手たちにもものすごい勢いと身振り手振りで話しかけていた場面が印象的だった。チームをなんとかしたいという選手たちの思いが、はやく結果に現れて欲しいと切に願う。（ささたく）

●いや、実に見事な、フィクションなら恥ずかしくて作れないような、鮮やかすぎる逆転サヨナラ負けだった。終了後に脳裏をよぎったのは、「コレは信号が点滅始めちゃったね。」

ということ。昇格レースに赤みがかかった黄くない信号が点いちゃった感。後半にはチャンスも作れてはいたが、どうも、岩手戦の後半から天皇杯、そして今日とずっと同じような焦ったさが続いて、危機感を感じずにはいられない。それでも、あえてポジティブにこの試合を表現すれば、双方ともスタイルを貫いた試合、かな？双方ともに同じくらいの決定機があったので、第三者的には楽しい試合だったかもしれない。しかし、ホームのサポとしては無然とするしかない試合。すんなり受け入れられないよ、こんなのは。横浜には申し訳ないが、この試合は勝ち点 3 がマスト。なのに、昨季に引き続き（横浜にとっての）イイ試合をされた。なんで、コレで未勝利の最下位なんだろう？特に、右 SB には好き放題やられた感じ。しかも、ワタルが退いた後はさらに。何のための交替だったんだろう？監督の用兵ミスなのか？途中出場した選手の理解不足なのか？決勝点が交替選手の得点だっただけに、余計に選手交替の明暗がクッキリと分かれたね。これで二試合連続の複数失点。先制点神話？も途切れてしまった。昨季の同じ試合数経過時より負け数が多くなってしまったのは、試合数が少ない今季では非常に痛い。やはり、今のスタイル、アンストラクチャーな状態を狙うような戦術なら、ボールの収めることの出来る選手が必要。あとは、ストライカーか。補強待ったなしとも思えるが、ウィンドーが開くまで持ち堪えられるのか？今いる選手たちのさらなる奮起を望んではいるが……。

ホント、頭を抱えなくなる 2 戦連続の敗戦だが、一つが天皇杯だったのは、まだ、ツキが残っている、と言えるのかもしれない。そんな中で、無理矢理イイコト探しをするなら『42 番の存在』か。結果は出てないけど、何とかしてくれそうな雰囲気もある。もう少しで、太陽が東の山の端に顔を出そうとしている、もしくは、厚い雲の向こうでは既に燦々と輝いているかもしれない……と信じたい。今節の相手は好調の福島。厳しい試合になると思うが、昇格のためには、もう一試合も落とせない。是が非でも勝ち点 3 を！昇格ロードを青信号に変えてくれ。（ぐん、）

●期待していた分、（失点の時間帯も含めて）落ち込みも大きかったけれど、今季の岐阜らしい試合だったのではないかな、とも思う。何度も書いていることだけど、「どっちに転ぶかわからない試合をこっちに転ばせて勝ち点 3 を得る」ゲームプランで進んだ試合が、最後はこっちに転ばなかっただけ。でもあるけれど、YSCC のサッカーに「自分たち側に転ばせた」感を見るので、モヤモヤは募る。YSCC は両 WB (SB ?) を FW のあたりにまで張らせて岐阜の両 WB の封じ込めに成功。2 得点ともサイドからの綺麗な仕掛けだった。対戦相手のこういう「コーディネートされたサッカー」を見ると、岐阜のサッカーは果たして「どっちに転ぶかわからない試合をこっちに転ばせる」規格になっているのかな？と心配になってくる。「どっちに転ぶかわからない試合がこっちに転ぶのを待つ」だったり、しないかな？

ぶっちゃけ、今季の岐阜のサッカーに「サッカー」としての魅力はあまりない（昨年もそうだったけど）。いいんだよ勝てばいいんだから。勝てばいいのです。「意図を具現化できないのなら最初から意図は持たない」という雑なサッカーで J3 を勝っていけるとナメてかかるのは監督の権限かもしれないし、それで勝てるのなら問題ない。でも、ここまで「攻撃がコーディネート出来ていない」というのがバれてしまうと、相手を率いるのがそれなりの知将ならなんとかなっちゃう。この日の YSCC みたいに。さて、どうしましょうね。（吉田 Casting）

【第10節】福島1-2 岐阜

●前節の衝撃的な敗戦から1週間。4連勝中で3位と好調な福島との上位対決。厳しい対戦相手だけれども、もう負けられない。しかし、福島も暑い…選手たちの体力が保つのか心配です。

前節の敗戦を受けて、スタメンに#23 大西遼太郎と#42 柏木陽介を起用し…あら、#23 大西はアンカーじゃなくて#8 中島賢星との2ボランチかな？そして1トップを#10 川西翔太にしたことで、ボールの収まりを良くする狙いが奏功したんだと思う。前半7分、福島ゴール前でボールを拾った#41 吉濱遼平が出したボールを、#10 川西翔太がニアで潰れて、#42 柏木が右足でボレーして先制点&今季初得点！その後、攻勢を増した福島に少し押し込まれる時間が続くと、今度は福島の#9 イスマイラに上がったクロスを、#40 樋口寛規が難しい右足ボレーでゴール隅に沈めて同点…。うーん、かつてレンタルで岐阜にも所属していた#40 樋口、今季は調子良いなあと見ていたんですが、この対戦でゴールを決められると、悔しいような嬉しいような（苦笑）。まあそんな感情を抱けるのも、この直後に#22 船津徹也が目覚めるようなミドルシュートをズドンとゴールネットに突き刺してくれたおかげでして（笑）。その前の、PA内での#42 柏木のボールの落としも見事でした。やはりプレーの質や視野の広さは流石と言うほかはない。徐々に調子も上がってきてチームにも馴染んでくるみたいだから、もっと活躍して欲しいものです。後半になると、あれ？早々に#42 柏木を下げて…うん、そうすると、やっぱりボールの収まりが俄然悪くなりますね（苦笑）。セーフティにと割り切ってシンプルにクリアする守備も大事だし必要だとは思いますが、もう少し、ちょっとボールを繋いで攻撃するとか時間を稼ぐとか、そういうことはできない（しない）んでしょうか…。そして後半71分にはさらに2枚替え…うん、これは明らかに『あと20分、守り切って勝て』っていうメッセージですね（苦笑）。その指示に従い、ゴール前をがっちり固めて(?)守る岐阜の選手たち。裏に抜けるボールに対して、勇気をもって飛び出す#20 GK 桐畑和繁のファインセーブも数回あったけれど、福島に決定機まではつくらせない。ただ、岐阜の選手たちのレベルなら、これで守り切れてしまうんだろうけれど、観てる方としては“事故”が怖くて、心臓に悪い試合展開でして…（苦笑）。それに、この守り方って（選手の）省エネになるのかしら？結果としては、しっかり守り切って2-1で勝利！YS 横浜戦での敗戦で一步後退してしまった優勝&昇格争いに、なんとか踏みとどまることができました。試合内容的にはアレですけど、今季は結果がすべて。勝つことこそが大事なので…（苦笑）。

新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、今回は日帰り遠征にしました。本当は前泊して福島を楽しみたかったけれど、仕方ない。アウェイ席を空けてくれたことだけでも感謝しなくてはと思う。そして、そういう判断もまた、個々の事情もあってなかなか難しいものになっていると思う。勝ったから良かったものの、はやくコロナ禍が終息してくれないかと、その願いが一層増した遠征でした。（ささたく）

●遂に、というか、ようやくというか。待ちに待った日の出。太陽が、東の山の稜線から顔を出してくれた。そんな感じの、岐阜県全市町村の期待を背負ったNo.42・柏木陽介の移籍後初ゴール&初アシスト。おめでとう！ありがとう！

多くのサポが指摘してたけど、モノスゴイ『首振り』だった。あんなに振ってたら、そのうち、フクロウみたいに真後ろまで見えちゃうんじゃないか？また、それだけじゃなく、試合後のインタビューを見聞きしても、かなりの『違い』を感じましたね。リアルで見ていた時は「けっこう、雑なパスだったな。利き足じゃなかったからか？」なんて思ってたんだけど、まさかまさか、雑さ加減までも意識、コントロールしていたとは……。絶句モノです。まだまだ全開ではないみたいだし、これから、さらにアゲてもらって、フル出場できるようになっ

たら……。なんて考えるとゾクゾクしてくるね。

それから、やっぱり、翔太がトップだとボールが収まるというか、落ちつくなあ……と感じるのは錯覚でしょうか？それとも、独りよがりの思い込みかな？それでも、オフサイドにはなったけど、ゴールを揺らした場面とかを含め、決定機を演出する能力はひと味もふた味も違いますね。陽介や遼平とのトライアングルはさらに相乗効果がありそうだし……。ウン、オラ、ワクワクしてきたゾ。この3人がノッてくると、トーマには出場することが狭き門になってくるけど、よく見て、吸収して、自分なりにアレンジして、もっともっと成長してほしい。ガンバレ。

ということで2位。昇格圏内に復帰したのはいいことだ。しかし、とりあえずの暫定2位というだけ。1位の富山も3位の宮崎もウチより試合数が少ないので実質3位といったところか。ただ、内容的にも、今後への期待が持てたので、自分的には昇格ロードの信号が青に戻ったかな？という感想。ただし、点きつ放しではなく点減してる程度。次節で対戦する宮崎も八戸相手にキッチリと勝ったし、夏休みまでの四試合は気が抜けないね。いや、前節で最下位に負けたワケだから、どの試合も楽じゃないのはわかっていますが（苦笑）。あ、樋口の元気な姿をみることができたのはよかった。キツツイ恩返し？弾をもらっちゃったけど。同点にされた時は、どうなることか……と思ったよ。

それから、現地組に最敬礼。ホームと変わらぬ雰囲気を作ってくれてましたね。ほんと、スゴかったよ。ありがとう！おめでとう！お疲れさまでした。今節の宮崎戦もよろしくお願ひします！（ぐん、）

●ああ、ようやくトーマの1トップを諦めてくれた……。と、ためいき混じりの安堵。彼は、基本はワンタッチゴーラーの系譜に位置していると思うので、FWでなら相方がいてこそ活きると思うんだ。

で、川西・吉濱・柏木の前線三銃士、あるいは『緑の三連星』かな？（笑）。J3では破格ですね。正直、岐阜移籍後のこれまでの柏木のプレーは『出し手』の域を出ていない、出ようとしていない感があって（もちろん、そこから出るパスは極上なのだけど）欲求不満なところがあったけど、あそこでの仕事が今後も出来るのなら、相手にはかなりの脅威になる。技術と経験でなんとかしちゃうからね。まあ、夏にどこかに買われないことを祈りましょう、がんばれフロント（笑）。（吉田铸造）